



肌に触れる風もだんだんと冷たくなり、秋の訪れを感じるようになりました。お散歩に出かけると、どんぐりや色づいた葉を大切に手に持ち帰ってくる姿があり、秋の自然と触れ合いを楽しんでいる子どもたちです。すいか組、うみ組、かぜ組は「親子で遊ぼう」が行われます。普段子どもたちが過ごしている環境を見ていただき、親子で触れ合える時間になれば嬉しいです。

## それって「甘やかし」？

### どこまで甘やかしていい？

子どもの成長には、「甘え」が大切。しかし、「どこまで」甘えさせていいのかは、子育てをしていて、誰もが悩む問題です。

### 「甘やかし」とは？

子どもが自分でしようとしているのに親がなんでも先回りしてしまうことです。それは、子どもの自立を阻むこととなります。つい心配で先回りしてしまうことも多くなりがちなので、注意が必要です。

### 時にはNOという「支援的なかわり」も大切

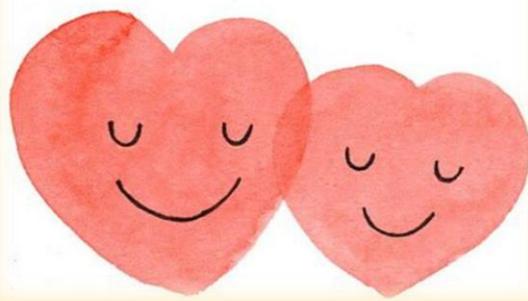
子どもの要求をすべて受け入れることはありません。時には、それを受け入れるのではなく、「じゃあ、こうしてみる？」と提案してもよいでしょう。スーパーで「買って、買って」と泣き叫ぶ子どもに対して、その気持ちをしっかり受け止めたうえで、「おうちにかえてポップコーン作ろうか」と言って、買わずにお店からでるといふかわりです。それで、気持ちが切り替えられたら、それは立派なことです。

### 「甘え」は自立を育むもの

子どもは自分の信頼できる人に「甘え」を出すものです。保育園でできるのに、お家では甘えて「やって」と言うのは、親を信頼しているからです。

子どもは園という社会でよく頑張っています。だからお家で親にわざわざできることをやってもらうなど、「甘える」姿が出てくるのです。

そこでしっかり「甘える」ことができた子は、次に自分でやろうという自立に向かうものです。



### 親をたたくようなことがあったとき・・・

「それは痛いからやめてほしい」と真剣にNOを伝えることも必要です。親であってもたたかれることは嫌なことです。

ストレスや嫌な思いの表現であることもあるでしょう。そのことに対しては「OOが嫌だったんだよね」とその子の思いを受け止めてあげつつ、「今度はそのことを言葉で言ってね。味方になるから」などと伝えてもよいでしょう。

非認知能力を育てる

「しつけない」しつけのレシピ より

大豆生田啓友 大豆生田千夏